

Stage2

ヒルクライム

in 仙台ハイランド

オーバー200km/h
でカウンター!
ハイスピード・
ヒルクライムは
チューナー達も

ビビりまくりの初体験!
度胸1000発でコーナーに突入、
ハイパワーコントロール
がキメだ!



仙台ハイランド レースウェイ ヒルクライムコース



取材協力: 仙台ハイランド・ヒルクライムコース
〒989-34 宮城県仙台市青葉区新川早坂12
☎022-395-2120

今回、ステージ3の会場となつた仙台ハイランドのヒルクライム場は、ダートラップ場へと向かう全長1.06kmのコース。
もちろん、一般にも開放されていて、走行一回につき、料金はなんと格安の500円。光電管によるタイム計測をする、走行一回につき1000円となる。

走行可能な車両は、ナンバ付きであれば何でも可、とのことだからバリバリの走り屋マシンでもバッチリOK。勾配がかなりキツイからパワーがあればあるほど面白いんじゃないかな。
コース幅も広いから、危険度も低くて、自由自在にクルマを操って楽しめる。

ゴメン!
チューナー's
キャンボール・ラン
急進エントリー
取り消しの
ウェイルサイド。
が、雪辱戦は
コバシクだぜ!



「今度はもっと速いマシン、開発中です!」

谷田部のジムカーナを終えると速攻で仙台へGO! ドンブラコッポとOPT隊がサービスマシンのポンゴローニーで60マイルクラ

ブ殿堂入りをしながら走っている間に、チューナー達は気分もバビュンとサービスマシンをプチ抜いて仙台へ。



DAY1、ステージ2は仙台ハイランドに場所を移しての、ヒルクライム競技。スキー場のゲレンデを下から登るといふコースは全長1kmちょい、パワーのみならず、チューナー自身のワテも試されるステージ。まさにワン・ラップ・オブ・ジャパンにはピッタリのバトルだ。
コースに到着したチューナー達は、即、慣熟走行へ。慣熟練習走行では、参考タイムを計測したが、やはり大パワー+4WDのおかげで、GTRが上位に。トライアル、マインズが37秒台。それに続くは38秒730と健闘のHKS関西ランエボ。本チャンはこの3台の動きに注目か?
本チャン・トライアル&2トライの各車の様子を見てみよう。注目のHKS関西ランエボ。タイムは37秒630と慣熟より1秒以上のタイムアップで公爵向井も満足ホクホク。が、最終コーナー立ち上がりでちょうど、レブが入ってしまった。あれがなければ……、とも漏らす。
トライアルはなんとイッキに35秒台にステップ。これに闘志をメラメラと燃やすのはニヤ倉クラゾー。コーナーリングスピードも安定し、確かにウマイ! が、この路面だと、サーキットに照準を射ばった足まわりでは固すぎるかな? これだったら、ストリート用セッティングがベストかも」とニヤ倉クラゾー。
ミッドシップエンジンのコーナーリング性能が有利かと思われたが、レージ権井MR2だが、確かにスタート後の直線、ブーストがかかる部分では速い。が、コーナーの出口でのシフトアップ時に6000rpmから7000rpmまで回っていたエンジンが、3000

rpmまで落ち込んでしまう。これは、比較的ハイギヤードなMR2にも問題はありますが、勾配のキツさがその主な原因だろう。
ラストアタック。各チューナーともベストタイム競出。HKS関西ランエボ、公爵向井は最後の駆けとして、バンビーマ路面に対応するためにFR共にショックの減衰力を2段階として、なんとしてもトラクションを上げようとする。そして作戦その2が、レブリミッターカット! 2ステージ目にしてすでに、ぶっ壊れてもしょーがない仕様でGTRに挑む。丁と出るか半と出るか……?
レブカットのおかげで9000rpmオーバーでS字を抜けたHKS関西。ショックの2段階としては成功、トラクションはかかるようになったが、今度はそのパワーに対して完全にタイヤのグリップがブアな状況に。ズリズリ滑らせながら、ゴール地点の光電管に突っ込んで行く。アクセルを仕方なく緩めて、ゴール。タイムは37秒348と、健闘したけれどラップバトルから脱落してしまった。
さて、GTR頂上決戦。まずはトライアル。S字入口のコーナーではブーストの落ち込みを防ぐために、ブリッピングしながら(いわゆる「マキ足」)コーナーを抜けて立ち上がりで速度を稼ぐ。
結果、34秒937という圧倒的に有利なタイムをたたき出す。これである。マインズ・クラゾー。最終トライでオーリンズショックをFR共に5段階として、S字を今までで最も速いペースで抜ける。が、出口でスピードが乗りすぎてゴール寸前、100km/hオーバーでカウンタを当てたまま、ゴールに飛び込む。タイムは35秒06。これでトライアルGTRの